

平成 22 年度前期終了時点 電子工学科 1 年生向けアンケート結果

本アンケート結果は平成 22 年度前期・電子工学一般の授業後に 1 年生の皆さんに回答していただいたアンケートを集計したものです。アンケートへのご協力ありがとうございました。ここでは、アンケートの結果および電子工学科からの教員側からの返答をまとめました。是非最後まで読んでみてください。

1. あなたはなぜ芝浦工業大学電子工学科に進学しましたか？

図 1 に問 1 の回答分布を示します。

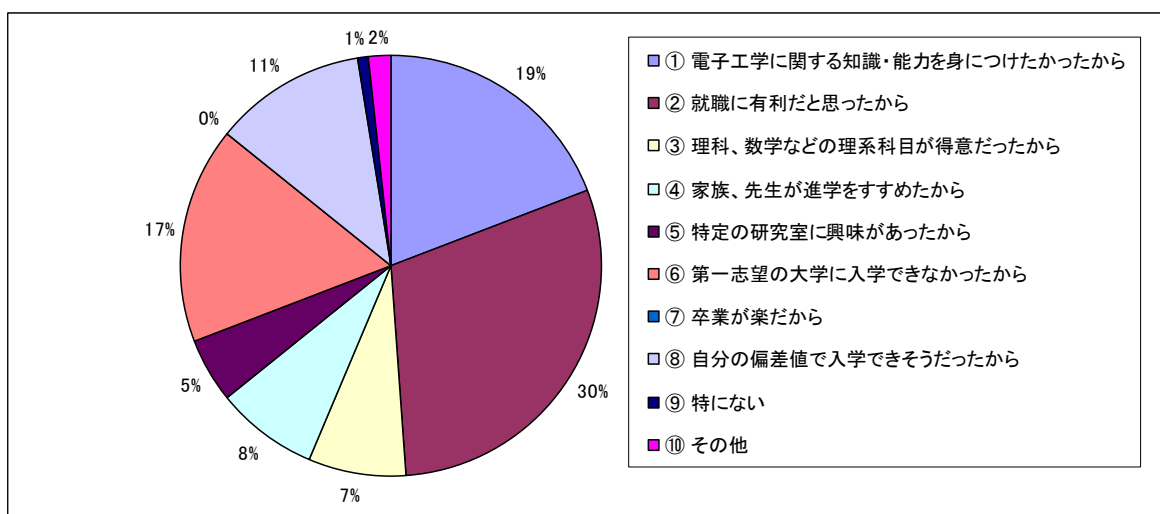


図 1. 問 1 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが芝浦工業大学電子工学科に進学を選んだ理由を調べるためのものです。積極的な理由として“①電子工学に関する知識・能力を身につけたかったから”及び“②就職に有利だと思ったから”が半数近くあり、向学心や何かを身につけようという気持ちの表れであることが伺え、大変うれしく思います。そのほか、“③理科、数学などの理系科目が得意だったから”“⑤特定の研究室に興味があったから”という理由もありますね。

一方、消極的な理由として、“④家族、先生が進学をすすめたから”、“⑥第一志望の大学に入学できなかったから”そして“⑧自分の偏差値で入学できそうだったから”があります。皆さんは偏差値・受験勉強とは離れ、実力の世界に入りました。大学は、社会人に向けて新しいスタートラインに立ち、社会人として必要な能力を身につけるところです。偏差値で本校を選ばれた方も、これからは偏差値では測れない、新しい知識を食欲に吸収してください。ひとつひとつの積み重ねが皆さんの将来に結びついていくはずです。一緒にがんばりましょう。

2. あなたが受験する大学を選択した際、参考にした情報源は何ですか？

図 2 に問 2 の回答分布を示します。

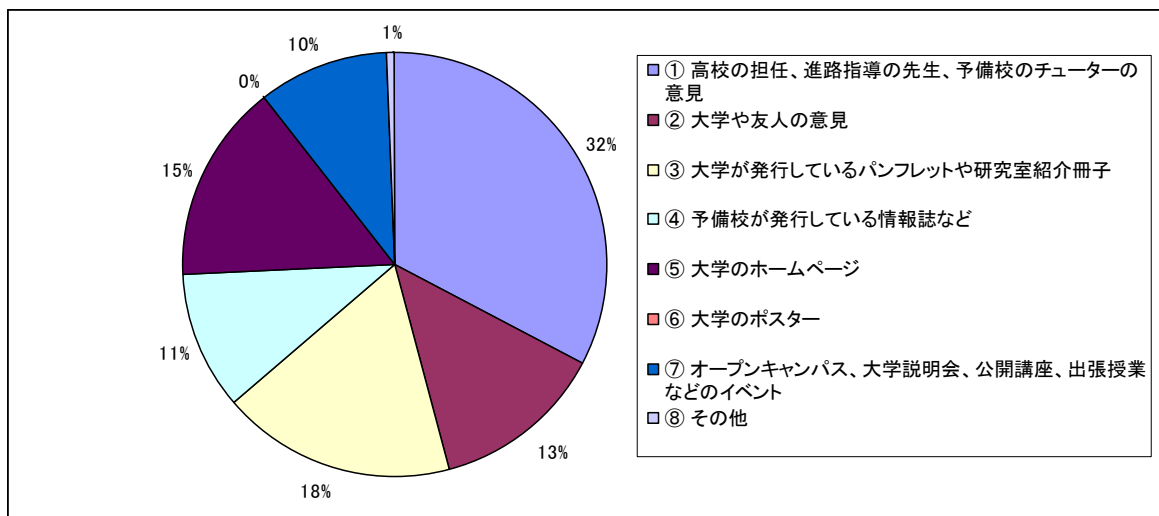


図 2. 問 2 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学を選ぶ際に、参考にした情報源を調べるためのものです。多くの人が“①高校の担任、進路指導の先生、予備校のチューターの見解”“②大学や友人の見解”を参考にしていますね。また“③大学が発行しているパンフレットや研究室紹介冊子”“⑤大学のホームページ”が多いことから、身近な人の意見だけでなく本校の広報なども参考にしていることがわかり、大変うれしく思います。また、“⑦オープンキャンパス、大学説明会、公開講座、出張授業などのイベント”についても、これまでの活動が皆さんの間に浸透してきた様子がうかがえ、嬉しい限りです。

3. あなたが受験する大学を決める上で、最も重視した項目はなんですか？一つだけ選択してください。

図3に問3の回答分布を示します。

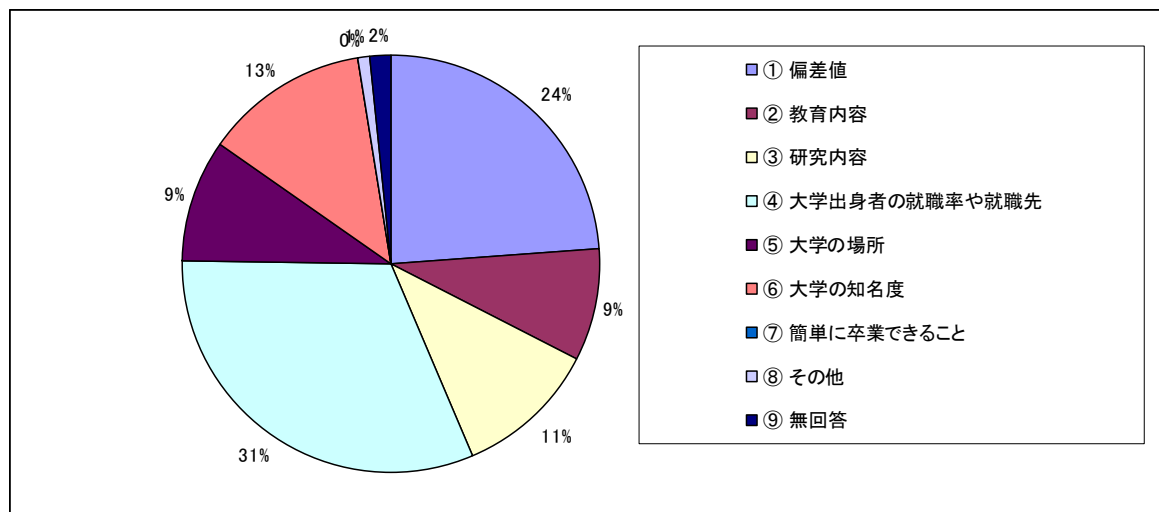


図3. 問3の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学受験の上で重視した点を調べるためのものです。多くの方が“①偏差値”と“④就職率”を重視しています。“①偏差値”は現在の大学受験・進学システムの上で無視することが出来ませんが、それ以上に“④就職率”が多く、「実学の芝浦」を重視しています。

“②教育内容”について重視された方は少なく残念に思いますが、本学科では水準の高い魅力的な教育を提供しており、大学院進学率が増加傾向にあることもそれを裏打ちしております。

4. あなたはいつ芝浦工業大学を進学先として意識しましたか？一つだけ選択してください。

図4に問4の回答分布を示します。

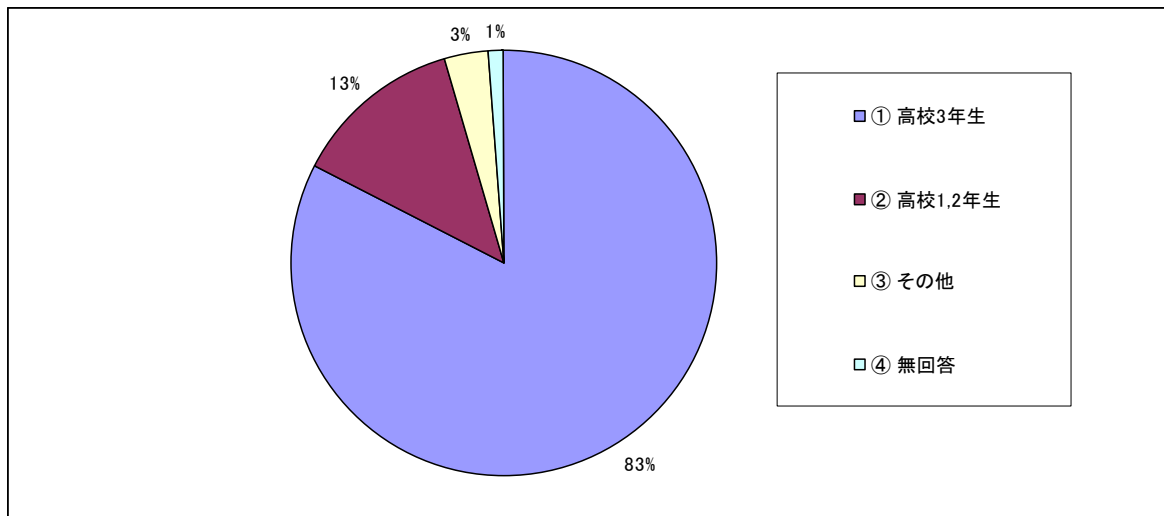


図4. 問4の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんがいつ芝浦工業大学を進学先として意識したかを調べるためのものです。ほとんどの人が“①高校3年生”と回答しており、ぎりぎりまで様々な可能性を探ることは自然な傾向だと思います。一方で、“②高校1,2年生”と回答された方も少なからずありました。早い段階から志望校として意識されていたということで、大変うれしく思います。

5. あなたが大学の勉強で最も修得していきたいと考えていることは何ですか？一つだけ選択してください。

図 5 に問 5 の回答分布を示します。

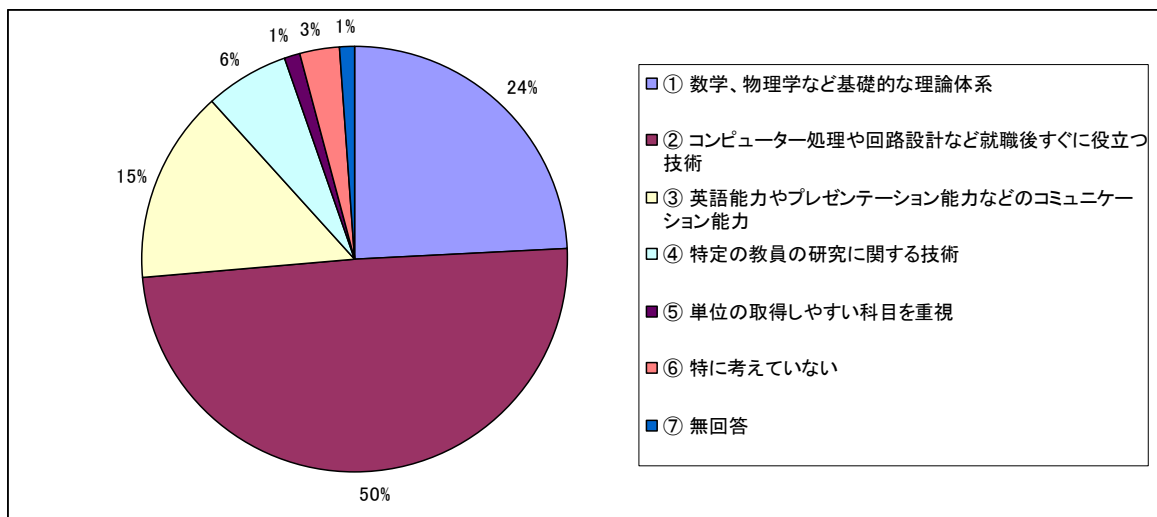


図 5. 問 5 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学で何を学ぼうとしているのかを調べるためのものです。半数近くの方が“②コンピューター処理や回路設計など就職後すぐに役立つ技術”と回答しました。皆さんが就職を強く意識していることがわかります。しかし、「すぐに役立つ技術」は時代とともに変わっていきます。一方、“①数学、物理学など基礎的な理論体系”のような普遍的な知識はすぐに役に立つように見えないかもしれませんが、「次の役立つ技術」に対応する時にあなたをしっかりサポートします。また、基礎的なことをしっかり習得しておくことで、はじめて高度な知識の蓄積ができるようになります。基本からコツコツと学んでいきましょう。

“③英語能力やプレゼンテーション能力などのコミュニケーション能力”について、相手のことを考えて話すようなコミュニケーション能力が基本となります。語学・プレゼンテーション能力を養う科目だけでなく、普段から自分の考えを友達・教員・家族にわかりやすく話すようにすることも立派な訓練になります。

6. 本学科では3年次の電子工学ゼミナールという科目の履修の際に、事実上の研究室配属が行われますが、その事を知っていましたか？

図6に問6の回答分布を示します。

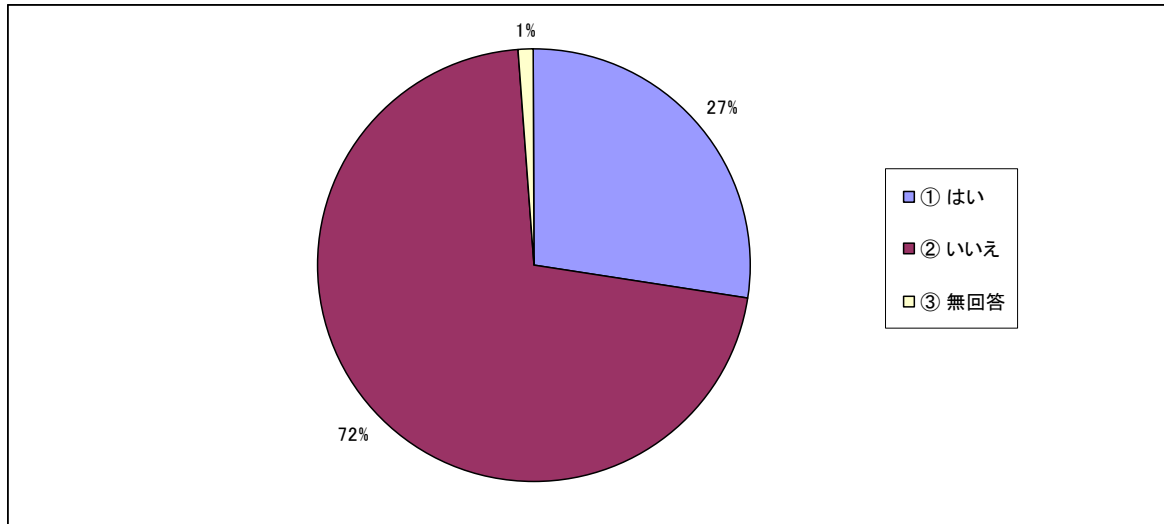


図6. 問6の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが卒業研究を行う研究室配属についてどのくらい意識しているかを調べるためのものです。1/4 近くの方が知らなかったと回答しています。卒業研究は学部での学びの集大成として4年次に行うものです。3年後期電子工学ゼミナールでは、事前に卒業研究内容に触れたり準備をすることで、みなさんの卒業研究を充実させようという意図があります。卒業研究内容によって就職先が制限されることはありませんので、できるだけ興味あるテーマで行うことが望ましいです。このような流れで進みますので、3年前期終了時には皆さんの興味の方向性を決める必要があります。

7. 研究室を決める上で、重視しようと考えていることはありますか？ 一つだけ選択してください。

図7に問7の回答分布を示します。

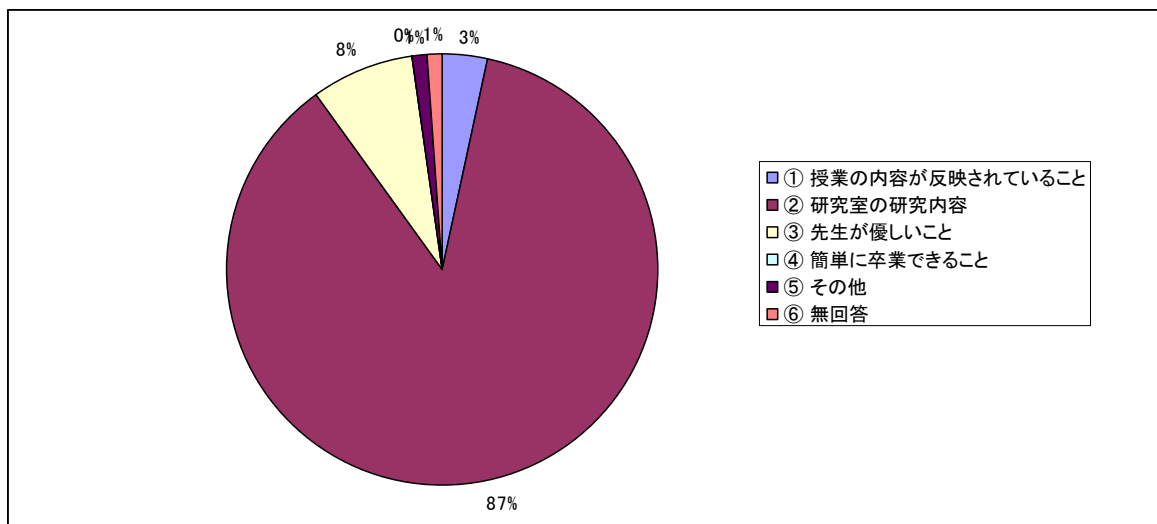


図7. 問7の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが卒業研究を行う研究室について何を重視して選ぶつもりかを調べるためのものです。ほとんどの方が“②研究室の研究内容”を選択しており、正しい意識を持っています。問6のコメントでも述べましたが、卒業研究は学部での学びの集大成として4年次に行うものです。また、卒業研究内容によって就職先が制限されることはありませんので、できるだけ興味あるテーマで行うことが望ましいです。そのためにも、自分自身がどの分野に興味や関心をもっているのか意識しながら、コツコツと知識を蓄えていってください。

8. 本学には大学院があり、修士課程や博士課程を修了することで修士や博士の学位を取ることができます。その事を知っていましたか？

図 8 に問 8 の回答分布を示します。

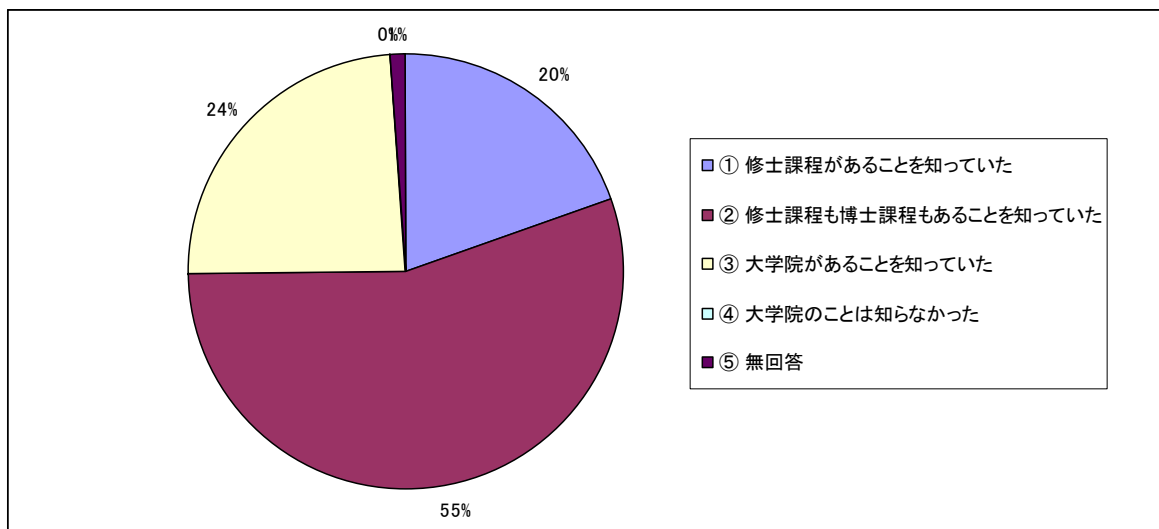


図 8. 問 8 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学院の存在をどの程度知っているか、また進学についての意識を調べるためのものです。ほとんどの方が大学院の存在を知っており、さらに半数強の方が修士課程や博士課程についても知っていました。大学院ではより高度な研究を行ったり、より高度な知識を学んだりしています。まだ先のお話しですが、大学院への進学率は年々増加傾向にあります。進学も選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

9. あなたは大学卒業後の進路について、現在どのように考えていますか？ 一つだけ選択してください。

図9に問9の回答分布を示します。

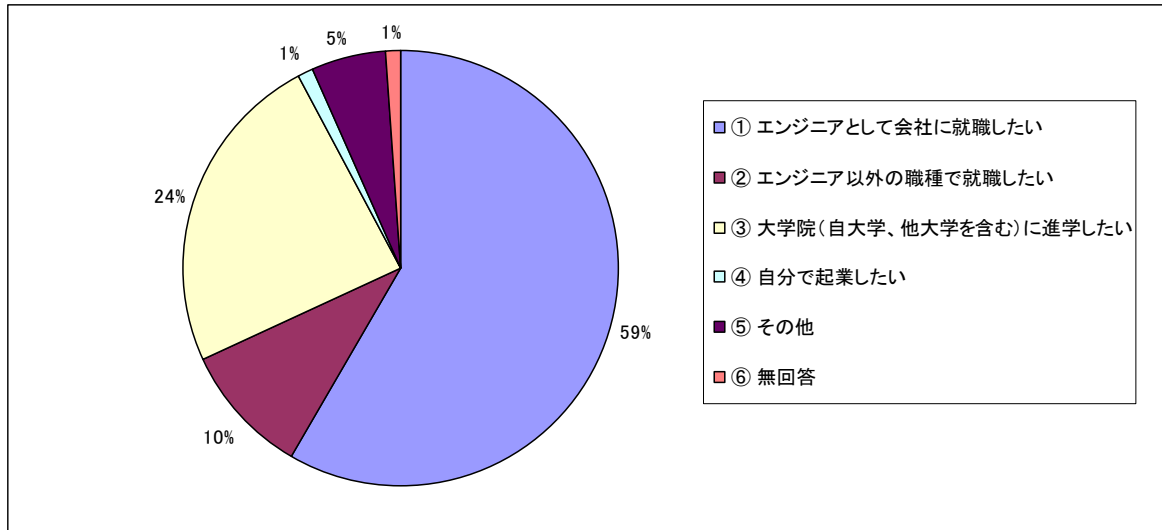


図9. 問9の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学卒業後の進路についての意識を調べるためのものです。ほとんどの方が“①エンジニアとして会社に就職したい”を選択しています。①と“②エンジニア以外の職種で就職したい”を含めると7割近くの方が就職希望となっています。その一方、“③大学院(自大学、他大学を含む)に進学したい”が1/4近くあります。将来、みなさんの希望が叶うように、今のうちからしっかり学んでいきましょう。

10. あなたが職業を決める上で、最も重要であると考えているものは何ですか？ 一つだけ選択してください。

図 10 に問 10 の回答分布を示します。

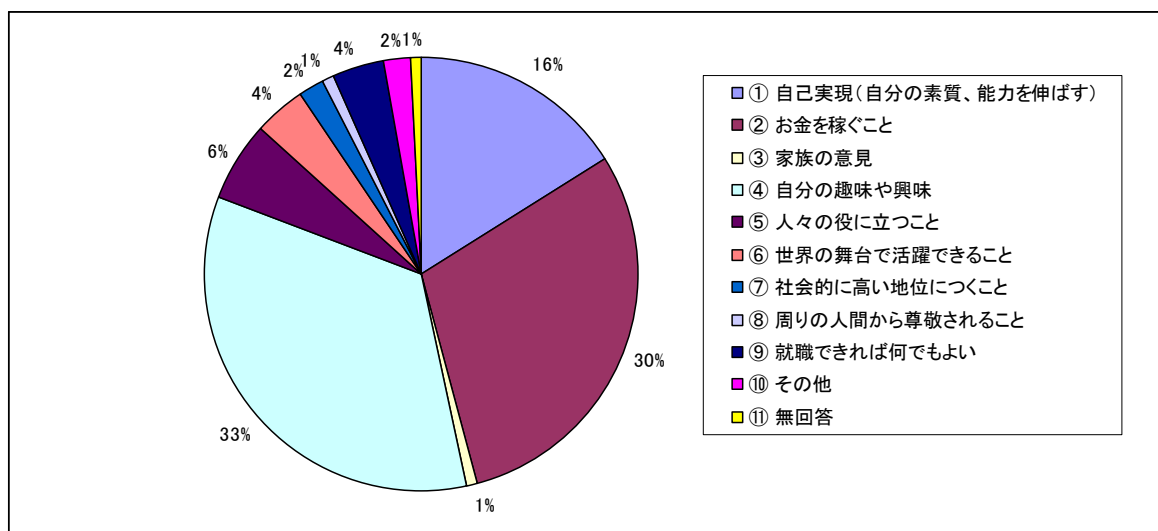


図 10. 問 10 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが職業を選ぶ際に何を重視するのかを調べるためのものです。“②お金を稼ぐこと”が3割近くあり現実主義的な部分が見えます。一方で、“①自己実現”“④自分の趣味や興味”で半数あり、自分が生かせる分野や自分の興味ある分野で生きていきたいと思う方も相当います。これからの大学生活を通じて、自分の意外な方向性に気づくこともあるでしょうし、興味の幅が広がることもあるでしょう。そのためにも、日々の学びを大事にしていましょうね。

11. 就職時に必要なもの、または大事なものは何であると思いますか？ 一つだけ選択して下さい。

図 11 に問 11 の回答分布を示します。

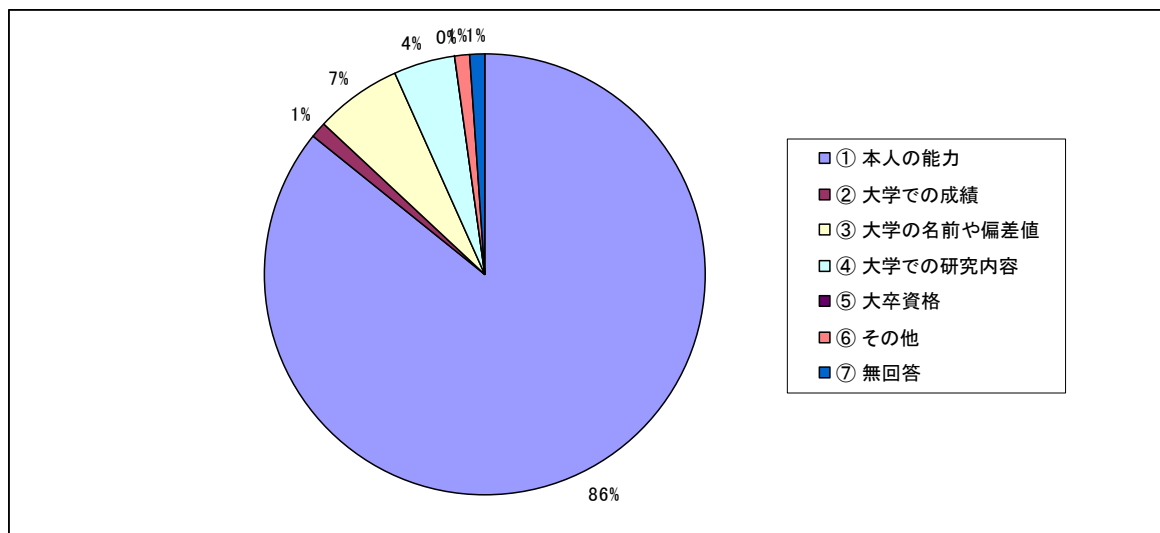


図 11. 問 11 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職に何が必要とされていると考えているのかを調べるためのものです。ほとんどの方が“①本人の能力”を挙げております。社会で必要とされるのは、大学の名前・偏差値よりも、本人の能力です。皆さんが会社の社長だったら、実力のある社員が欲しいですね。「自分が社長だったら自分を採用するか？」と自分に問いかけて、自信を持って「採用できる」と言えるような自分になれるよう、実力をつけていきましょう。

12. 就職状況についてお尋ねします。2011 年新卒（来年度卒業・修了）の就職状況が厳しいことを知っていますか？ 一つだけ選択してください。

図 12 に問 12 の回答分布を示します。

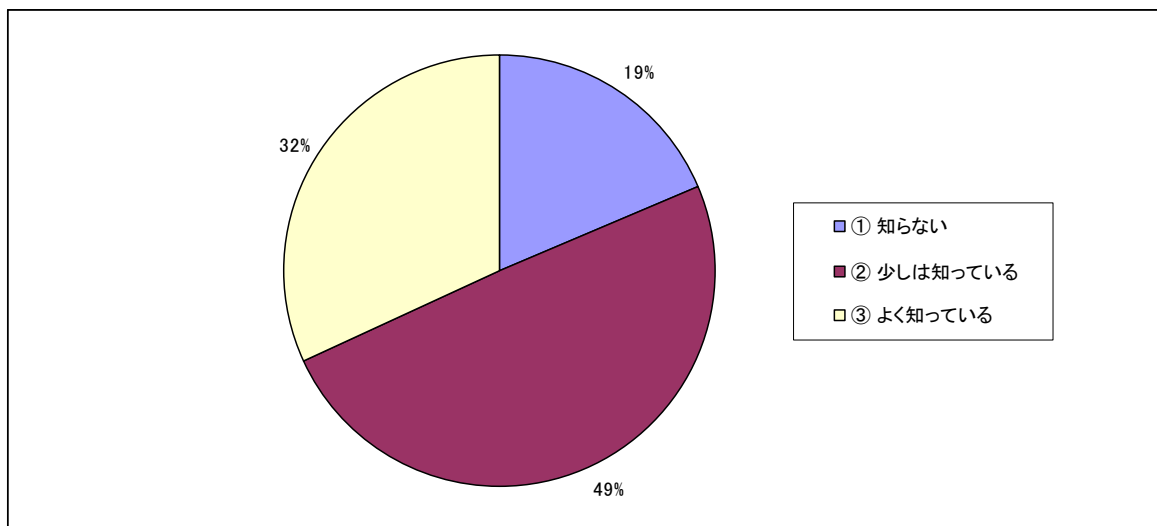


図 12. 問 12 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職状況についてどの程度知っているかを調べるためのものです。8割近くが知っていると回答しております。一方で2割が知らないということですが、就職状況については、ほとんどの方がご存知の通り大変厳しいです。しかし、実力があれば、社会が貴方を必要とします。本学科では、あなたのやる気に応える教育設備や教育体制を整えています。存分に活用して、実力を養いましょう。

13. 2011年新卒の就職状況について、どの程度意識していますか？

図 13 に問 13 の回答分布を示します。

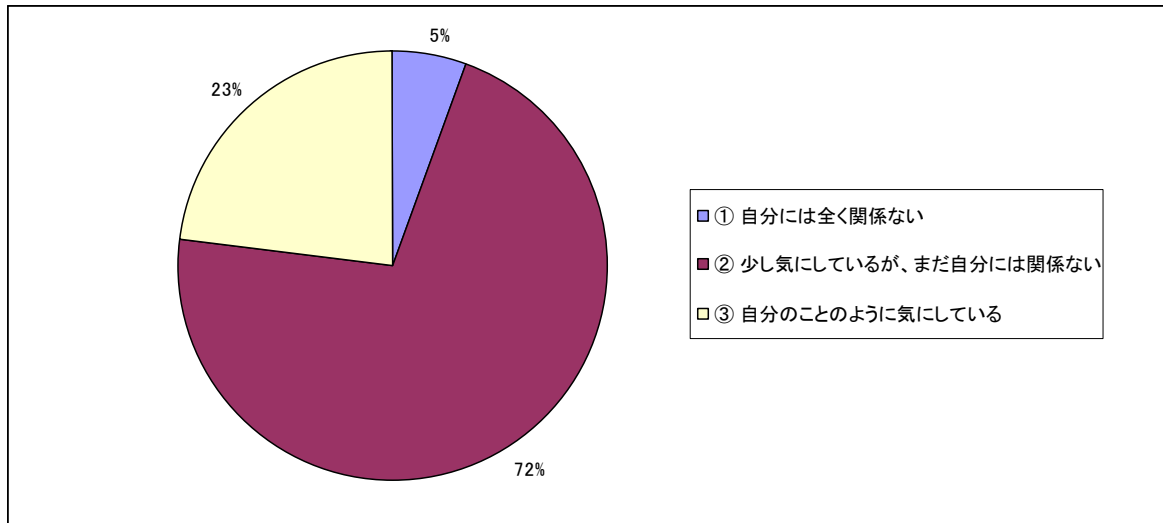


図 13. 問 13 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職状況の厳しさについての意識の程度を調べるためのものです。“①自分には全く関係ない” “②少し気にしているが、まだ自分には関係ない” が 8 割弱あり、非常に心配しています。就職活動の時期はあっという間に訪れます。今から意識しておきましょう。インターンシップなど企業と直接触れ合える機会があります。積極的に参加してください。就職はあなた自身が向き合う問題です。情報収集は意識的に行いましょう。

14. アルバイトをしていますか？ している場合は週何日、1日あたりの平均時間を記入して下さい。

図 14(a)にアルバイトの有無の回答分布、図 14(b)にアルバイト日数/週別で集計したアルバイト時間を示します。

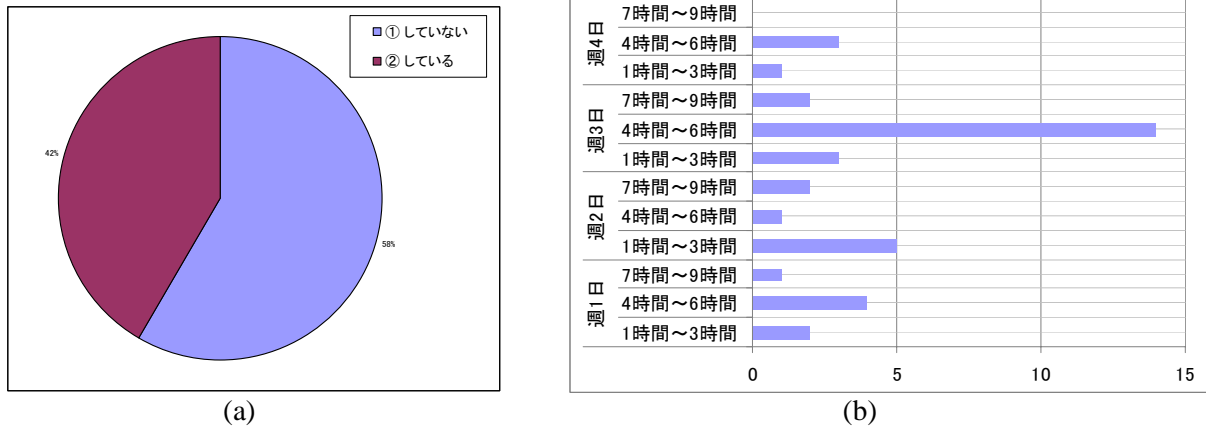


図 14. (a)アルバイトの有無に対する回答分布 および
(b) 週あたりのアルバイト日数別で集計したアルバイト時間分布

この質問は学生の皆さんのアルバイト状況を調べるためのものです。4割弱がアルバイトをしていると回答しています。そのうち週3日で1日あたり4～6時間が最も頻度が多いとなっています。この頻度と時間数から考えると、勉強する時間を圧迫しているように見受けられます。アルバイトについて様々な事情があると思いますが、今は「学ぶ」ことが大切な時期です。せっかくの学びの機会を無駄にしないよう、そして実力をつけることを忘れないでくださいね。

15. 大学に入学して約4カ月経過しましたが、入学前にあなたが大学に対して持っていたイメージと異なることはありますか。もしあれば教えてください。

数が多いので、目立った意見とそれに対する教員側の回答を述べます。なお、皆さんの意見は類似意見をまとめるために多少文面が変わっています。

・勉強が難しい、身に入らない、わかりにくい

[回答]

(1) 他大学と比べ、授業内容が難しすぎるということはありません。予習・復習時間が十分足りているか確認してください。一生懸命やっているのに行けない場合、授業を受けるための実力が不足している可能性があります。学習サポート室を訪れ相談してください。

(2) 身に入らない場合、大学に来た目的をもう一度考えてみてください。実力を付けて社会に出るつもりがあれば目的を持っています。大学は専門分野の学びを通し、社会人として必要な能力を身につける場を提供しています。実力を付けるため、日々の課題を黙々とこなすことを目指してください。それでもやる気が起きない場合、他にあなたの道があるのかもしれませんが。クラス担任に相談してください。あなたの将来を考え適切な指導を行います。

(3) 授業がわかりにくい場合、授業だけで理解しようとしていないか勉強方法を見直してください。多くの科目の場合、予習・復習なしでは習得が困難です。

・もっと自由に授業が履修できると思っていた

[回答]

現在の1・2年生のカリキュラムに空き時間が少ないことは事実です。学習効果（積み上げ科目の配置）、再履修のしやすさ、3年以降校舎が豊洲に移ることを考慮していますが、本意見について真摯に受け止め、より良く教育効果が高まるように検討していきます。なお校舎は変わりますが、3年以降は比較的自由度が高くなります。空き時間を上手に使って履修してください。

16. 最後に、電子工学科に対する要望などがあつたら記入ください。

数が多いので、目立った意見とそれに対する教員側の回答を述べます。なお、皆さんの意見は類似意見をまとめるために多少文面が変わっています。

- ・わかりやすい授業をして欲しい

[回答] ※15にも授業について回答しております。両方参考にしてください。

教員側にも努力の足りない点があると思いますが、さまざまなバックグラウンドを持った学生全員にわかりやすい授業を行うことは不可能です。高校までのつもりで「私が理解できないのは教え方が悪いからだ」「教え方が上手なのが良い先生」という認識がありませんか？ 大学からは「教えてもらう」から「自分で学ぶ」に変えてください。「自分で学ぶ」とは、予習で内容の理解と不明点の明確化をあらかじめ行い、授業では理解の確認と不明点の理解（理解できなければ教員に尋ねる）、復習で理解した事項の整理と定着を行う、ということです。そうでないと、自分できないことを他人に責任転嫁するクセがついてしまい、努力しなくなってしまうですよ。初めて学ぶ事柄が何を指しているのか、またその背景まで考えを巡らせて指している事柄を理解することは簡単ではありません。理解できる速さは人によって異なります。時間がかかるとわかっているのであれば、あらかじめ時間を掛けておく方がスマートです。

- ・単位取得上限を緩くして欲しい

[回答] 履修できる科目が増えることは、学習意欲の高い学生には知識を得る機会が増えるかもしれません。しかしながら、一つの科目に対する学習時間が減ることから、学習効果が下がることは事実です。最近では文部科学省の方針もあり、みなさんの学習効果をよく考えて履修上限を決めることになっております。現在、成績優秀者は半期あたり最大 28 単位まで履修できますので、決して少ない科目数ではありません。このルールの中で履修してください。

- ・実験を多くして欲しい

[回答] 実験は座学の内容を実際に体験できる良い機会です。また実習については技術を身につけることができます。皆さんのカリキュラムでは、電子工学一般、物理実験、化学実験、基礎実験、コース実験 1、コース実験 2 という流れで 3 年生後期まで実験科目が用意されています。現在、週 1 科目で実験科目が履修できるようになっており、無理なく学べるように配慮しています。

もっと多くすることについては難しいところです。実験して楽しい、作って楽しい、だけでは大学の授業ではありません。実験後にレポートを作成していることだと思いますが、理論・原理の理解とともに、実験内容と結果のまとめ方、考察の方法なども学ぶ必要があります。実験科目を週 2 とすると、そのレポートだけで自宅学習時間が終わってしまいます。今後は授業の中で実験や実習を増やすことを検討していきたいと思えます。

最後に

皆さんの考えはこれからも参考にさせていただきます。アンケートにご協力いただいた学生の皆さんに感謝します。(担当：石川博康 ishkw@sic.shibaura-it.ac.jp)